

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居様が私の家として安心して暮らし、仲間を招待できる居心地よい場所として頂けるよう、職員全員で考えた理念を掲示し確認しあっています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	形だけの理念ではなく、日々のケアがどう理念と関係するのか？入居者の為にどう繋がるのか？を全職員が理解する事が大切と考えています。ご近所とのふれあいの中で生き生きした姿を確認できた時は職員の喜びでもあり、申し送って継続できるよう機会作りを行っています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へは入居時に理念を伝え、その為の情報提供をして頂いています。地域の方へは運営推進会議や町内会参加時に、当ホームの特徴として何に力をいれているかをお伝えしています。	○	ご近所へは馴染みの関係ができていて、改めて理念をお伝えできていないと思います。行動だけではなく、口答でもお伝えしていきたいです。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	スーパーや郵便局、ご近所の方とは顔馴染みの関係ができており、毎日の挨拶は当たり前になっています。徘徊者に声をかけ自然に立ち止まらせて頂いたりして助けられています。	○	ホームへ足を運んで頂く回数が多いとはいえません。より開放して立ち寄りやすくてできる工夫をしていきたいです。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所とは挨拶や立ち話などの日々の交流ができています。また、町内会や地域の行事へ参加する回数も増えてきました。	○	老人クラブの活動内容もお聞きしていますので、一緒に活動できるよう取り組みたいです。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	お一人暮らしでホームへは遠慮されお越し頂けない方と知り合い、職員が訪問し相談に応じたり、得意の手芸を習ったりしています。地域の集会では認知症ケアの実践をお伝えし、在宅でケアされている方の相談をうけています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は意義を全職員に説明し、受けています。評価結果も説明し理解した上で話し合いを持ち、改善しています。また良い評価された部分は自信となり継続できています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実状を報告し、ご意見を反映できるよう取り組んでいます。	○	2ヶ月に一度のペースでは開催できていないので、定期的に行い、実のある会議にしていきたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が主に市役所高齢施設課を訪問し、情報交換しています。	○	管理者は電話での相談で止まっているので、今後は行き来する関係作りをしていきたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、資料をもとに他職員へも説明しています。実際、必要とされている方がいらっしゃいますので、相談に応じており、手続きを行っていらっしゃいます。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、会議の中で説明しています。また、その機会に虐待防止に向けての職員のストレス解消法も意見交換しています。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所側が一方的にならないよう配慮したり、専門用語ではなくわかり易い言葉にかえ説明しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	はっきりと意見される方が多いので、真摯に受け止め、全職員で改善に努めています。遠慮がちな方も態度で気づくよう注意しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族との関係維持を重要視し、定期的に報告するよう努めています。食事、入浴、排泄、移動、医療、余暇活動、その他の内容に分け一覧表を作成し報告しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、無記名で入れて頂けるようにしています。外部の相談窓口がある事を掲示してお知らせしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を聞くようにしており、会議で、実践にむけた話し合いを設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて、職員数を厚くしたり勤務調整できています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は専属とし、希望でない限り異動は行っていません。異動や離職の際には、ダメージを受けると思われる入居者様にはおめでたい理由と伝え、気持ちよく送り出して頂くなどの工夫をしています。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	代表者が公平、中立の信念を強く持ち、その考えは事業所にも浸透している。 職員の得意分野を活かした係りにしたり、気の合う入居者様の担当をしてもらうことで相乗効果が得られています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様のこれまでの生活歴を知りそれを活かした活動内容の提案をしています。ケアしている立場とはいえ年配者に対する尊敬の気持ちを忘れない様になっています。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度自らの目標と反省を記入した業務報告書を提出してもらい、各自の成長ペースに合わせた研修を選択し、指導教育を行っています		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理念を共有できる同事業所間での情報交換を密にし、職員を入れ替え実際の業務を体験してもらう事で、相互に質の向上をさせるべく取り組んでいます。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ヒアリングシートに悩みや相談を記入してもらい、改善にむけ話し合いの場を設けています。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	こまめに声かけを行い、頑張っている姿勢を会社側もきちんと評価していることを伝えていきます。また昇給や昇格にも反映し、職員の意欲向上につながっています。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまで培ってこられた大切な人や物、思いをお聞きし入居後も継続できるよう話し合ってから利用が始まるようつとめています。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症ケアの大変さを実感され、やむなく入居を選択された方も多く、お気持ちを察し、ご家族のしてさしあげたかった事を実現できるようつとめています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お聞きした状況や希望を考慮した上で、介護サービスの説明をし、その中から慎重に選択して頂くことを薦めています。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得し入居される方は少なく、体験入居して頂いたり、職員が訪問したり、本人に来て頂いたりする中で、安心して任せていただける関係作りをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や園芸にお誘いする場合も、「教えて下さい」と自然に出ています。長年生き抜いてこられた強さを日々の場面で実感し、その姿に職員は励まされています。よい花嫁修業になるなあと思います。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況も教えて頂いているので、ご家族の気持ちになって職員は、本人へ配慮したり、支えあったりしています。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や敬老会には一緒に参加して頂き、大きな家族の和ができています。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室や店へお連れし、知人と昔話に花を咲かせる機会をつくっています。友人との行き来も定期的にできています。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員を通してだけでなく、入居者様同士で交流できるよう、職員は遠くで見守っていることも多いです。廊下には談話できるスペースを設け気のあう同士で利用して頂いています。	○	トラブルになる場面も多く、つい職員が中に入り込みすぎているので、入居者様同士で解決へつながる事を期待し、もう少し見守っていこうとも思います。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族とは利用後の様子を尋ねたり、相談しあったりしています。ご本人様からはお手紙が定期的に届いて嬉しく思っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はもとより、ご家族や知人の方にもご協力頂き、希望を明確に把握することにつとめています。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を採用し、生活暦や趣味や特技等を詳しく情報収集して活用しています。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	まずはご本人の生活ペースを把握し、認知力や体力を確認し、強制はせず自分らしく過ごして頂けるよう配慮しています。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に状態把握を行い、変化に応じて、ご本人やご家族の思いを反映し介護計画を立てています。	○	経過するにつれ、「お任せします」との言葉に甘え、職員主体となっている部分がありますので一緒に考えたいと思います。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化によりケア方法が先に変更される場合もありますが、早急に介護計画の見直しとアセスメントの取り直しを行い、ご本人やご家族の意見をお聞きするようつとめています。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録には、その日の状態を記入すると共に総合的な気付きや状態変化も記入することで、ケアの視点をかえたり介護計画にも反映しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠慮や垣根は除外し、よりよい入居者様の生活のために、多岐にわたり助言を頂き実践しています。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会や民生委員さんとの話し合いの場をもうけています。毎週金曜日にはボランティアの方が来てくださっています。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーさんとの連携を行っています。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	できておりません。これから地域包括支援センターの方とお会いする場を設けていますので、積極的に取り組んでいきたいと思っております。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続できるよう配慮しています。事業所の協力病院に変更された場合も情報提供等を含め、相互の病院で連携して頂いています。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院でもある専門医に、日常的に相談できる関係があります。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内に看護師が常置していませんので、社内の看護師に定期的に見てもらっています。受診の必要までない状態を相談し、適切なケアを行うようつとめています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合はこまめにお見舞いに伺い、ご家族と共に医師からの報告を聞き、今後について話し合っています。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や定期健診時に話し合う場をもうけています。	○	突発的に重度化した場合は、その時に話し合うこともありましたので、日頃から話し合いの場を作っていきます。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応できる範囲を線引きするのは困難ですが、最後まで事業内で過ごしたいとの要望に沿えるよう、職員のレベルアップを図り、医療機関との連携もスムーズにいくよう努力しています。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	知りえた情報やホームでの暮らしについて、十分に情報提供を行い、早く次の場所で落ち着いて生活できるよう協力しています。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないよう、職員は言動に注意しています。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の気持ちを常に尊重していますので、生き生きと自分らしく行動されてる姿が多いです。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースや好みを把握できてきました。個々に合わせた声かけや誘導ができています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみを整える事で朝が始まります。それぞれの方法で整えられていて支援もできています。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当事業所の特徴といってもいいくらい、食事作りは毎回、入居者様と一緒にしています。食事に関わる様々の作業も食べる時の楽しみに繋がっているようです。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ある方は、毎晩ビール一杯を晩酌され、最高の笑顔を見せて下さっています。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄パターンを知る事で失禁をなくす工夫をしています。訴えられない認知症の方の排便コントロールの重要性を職員は認識しています。	○	夜間は安眠を重視し、失禁があってもオムツに頼ってるケースがあります。本人やご家族の意向も聞き、他の対応もしていきたいと思えます。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ただの清潔保持とは考えていません。「気持ち良かった、入ってよかった」と言って頂けるよう配慮しています。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠の為に、日中の活動を増やしたり、入眠前に足浴をしたり工夫しています。決められた消灯時間に合わせて頂くのではなく、眠くなって床に入ってもらっています。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内ではお一人お一人得意なことを役割としてされています。感謝の気持ちをお伝えすると自信に満ちた表情をされます。	○	ホーム内に留まらず、地域の活動で本人のできる事がないか探し、参加、交流していきたいと思えます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持されており、お好きな時に買い物される環境にあります。また、所持が不必要とされる方も、お預かり金がある事を伝えており、使用して頂けています。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や、周辺の散歩は日常的に、あらゆる方と行っています。お花見等の大外出する機会も多いです。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話から希望を収集し、車を使用したり、ご家族と計画を立てたりして、実施できています。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも使用できるよう開放しています。お手紙セットを用意し、一緒に書けるよう支援しています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方にも、明るく挨拶し、家庭的雰囲気の中で対応し、気軽に話し来て頂ける関係ができています。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、定期的に話し合いを設け、身体拘束にむけ取り組んでいます。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	頻繁に出て行かれる方がおられますが、職員間で施錠への抵抗があり、安全を確保しながら見守っています。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室でお一人の時間を過ごされている時は、無理に声かけ等せず、居室入口から様子をみています。ホームから出て行こうとされる方には、まず見守りをし、危険が及びそうな時に声をかけています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の方には、生活用品が危険になる場合がありますが、的確に使用される時もあります。その必要性は重視し、見守りや使い方をお伝えしています。どうしてもお預かりする場合も、見守りできる環境でお渡ししています。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成、職員間で把握し、事故防止につとめています。事故前で防がれたケースについても報告し合い、再発しないよう検討しています。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、職員間で定期的に確認し合っています。夜勤でのシュミレーションもして、特に手厚くしています。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の対応マニュアルを掲示し、いざと言うときに備えています。また、手作り担架を作り、スタッフ一人でも対応できるようにしています。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		○	職員間でよかれと思う方法で改善しているケースも多いので、ご家族との話しあいをして、よりよい対応策をみつきたいと思います。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝食後にバイタル測定を行い、記録に残し状態の把握をしています。申し送りで情報共有し、異常があった際はすぐに対応しています。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に医療ファイルを作成しています。病名や薬剤の内容、用量を記入し、全スタッフが確認、把握できるようにしています。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘には非常に敏感になっており、水分量や運動量等の調整を行い、快便に至っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全入居者様が、食後の歯磨きが習慣になっています。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をつけ、1日トータルでバランスよく、各自に合わせた摂取方法を工夫しています。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、職員間で把握、実践しています。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前には手洗い・消毒をし、とりかかります。毎日、流し台・生ゴミ受け・まな板等消毒をしています。食材は、毎日買物に行き新鮮なものを購入してその日のうちに使用しています。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場から玄関まで花の鉢植えを置き、家庭的な雰囲気を作っています。玄関には木で作った表札をかけています。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所には季節の花を活けています。また、清潔感を保ち、自然な色で装飾するよう心がけています。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを共有空間にも設置し、自由にくつろげる場としてお使い頂いています。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新品より思い出の品や馴染みの家具を持ち込んで頂くよう話し、環境変化によるリスクを最小限におさえています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各場所に温度計や湿度計を設置し、調整しています。こまめに換気するよう心がけています。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には椅子を、トイレ内にも手摺を設置し、職員に頼らず歩いてみようと思わせる工夫をしています。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には自分で書いて頂いた表札を掛け、ドアは各自違った色で塗られています。間違いやすい物には工夫をし、認識していただいています。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには植物やベンチを配置し、気軽に安全に楽しんで頂ける空間にしています。また、敷地内には畑や公園風の空間があり、大変ご好評頂いております。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない